

チャンスは自分でつかむ

新潟県新発田市立本丸中学校

三年 長谷川 彩 乃

私は幼い頃から「苦手」としてきたことがありません。それは「人と関わること」です。これを言ったら相手はどう感じるだろう、これをすれば自分はどう見られるだろう、という気持ちが先回りして、なかなか自分から話しかけたり、行動したりすることができませんでした。そのためか、その頃の私は友達が多くありませんでした。また、人の前に立つことや、人をまとめることも避けていました。ですが、中学三年生の今の私は、人との出会いをきっかけに大きく変わり、苦手だったことに自ら挑戦する日々を送っています。

中学一年生のとき、ある先輩に出会いました。先輩に以前から憧れていた私は、その先輩に何度も話しかけようと試みましたが、なかなかできませんでした。ある日、先輩と二人つきりで話せることになりました。相手が先輩であることを忘れる程、部活や学校、友達のことなどたくさん話をする事ができました。なぜこんなにたくさん話せて、自然に接することができるのか、不思議な気持ちになりました。先輩は、私が話しやすいように真剣に話を聞き、私の気持ちをくんで質問して、上手に私の話を引き出していたのです。その上、いつも明るくて、

一緒にいるだけで楽しくなれました。私はその先輩のように、人に元気を与えるような人になりたい、と強く思いました。先輩はそれからしばらくして、中学校を卒業しました。もう話ができないのか、もう会えないのか、と思うと、涙が止まりませんでした。そして、いつか先輩のようになりたい、と心に決めました。

二年生に進級したとき、まずは学年委員に立候補しました。学年委員は、クラスや学年のために貢献したり、みんなの模範となる行動をしなければならぬため、決して楽なものではありません。慣れない活動をしていると、嫌な顔をする人や、指示を聞いてくれない人もいて、自分が悔しくなりました。そんなときに、先輩の、人に元気や心の安定を与えるような行動を思い出し、自分なりに行動してみることができました。すると、多くの人が私の行動を受け入れ、応援してくれました。私はその体験から、迷いや困難の壁を乗り越えることができると、大きなやりがいを感じることができました。

そして今、私は、憧れの先輩がしていた生活委員長をしています。学年委員と違い、委員長となると、学校全体をまとめなくてはなりません。私は、新しい活動を多く取り入れました。その一つが、あいさつ運動です。活動内容は、朝に生徒玄関前であいさつをするものです。最初は、大きな声を出してあいさつすることに、抵抗や緊張がありました。ですが、何度も続けていくと、あいさつを返してくれる人も増え、改めてあいさつをすることの楽しさを知ることができました。「あいさつ運動で元気になるよ。」「素晴らしい活動だね。」などと声をかけてもらい、私は、委員長としてのやりがいを感じるることができました。また、憧れの先輩のような、人に

元気を与えて人から必要とされる人に一歩近づいたのかな、と思いき嬉しくなりました。そして、自信がもてるようになり、様々な場面で積極的に意見を言いました。私は、先輩を通して、人を思いやる心や、行動を学び、それを実行することで、多くの人に助けられながらも、困難を乗り越え、自信をもつことができました。このことは、私を大きく成長させたことと確信しています。

私は将来、大きな夢があります。これまでの体験から得た力をもとに、そこから新たな世界を広げていきたいです。先輩と出会い、人を思いやる心や、相手のために自分ができることは何かを常に考え続けること、大勢の人を動かすことの難しさや、やりがいを感じる事ができました。私の挑戦は、最初は本当に小さな一歩でしたが、一つ一つ挑戦していくことで、「目標」に近づくことができました。これからも、この挑戦を続け、自分の世界をより広げていきたいです。